

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム和の杜	評価実施年月日	平成20年8月1日～8月15日
評価実施構成員氏名	斉藤 春枝 和泉 律子 中村 洋子 佐藤 嗣子 大内 弘美 菊地 瞳 佐藤 翼 木下 敬 崎原 未希 大網 政枝 前川 幸子		
記録者氏名	斉藤 春枝	記録年月日	平成20年8月20日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「その人らしさを大切に、安らぎと楽しさに満ちた雰囲気の中で生活が送れるように」馴染みの環境の中で仲良く助けあい、明るく生き甲斐のある暮らしができるようにサービスの提供に努めています。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>その人らしさを大切に、安らぎと楽しさに満ちた雰囲気の中で生活できるように常にケアをしている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>日々の生活の様子等を写真に撮り面会時に家族に手渡したり、毎月の通信に載せ家族に知らせている。地域の方々には行事には来てもらったり、個々の家族に連絡し誕生日には来てもらい関わる機会を多くしている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>地域の人々と声をかけあったり、見学をしたい、1日のホームの様子を見てみたいなど受け入れに努めている。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域で行うフクハラ(食料店)祭りなどに参加したり、前庭でホームが行う花火会には地域にも声かけなどに努めている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>地域が住宅街の環境でないため、取り組みには至っていない。</p>	○	<p>4月より町内会に入会したので会合等に参加し、事業所として役立つ事があつたら話し合っていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価を行う事により、日々の業務の見直し、ケア・対応すべてにおいて管理者、職員は振り返りの機会を捉えている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホーム内での様々な状況を報告し、気になる事、気になっている事なども含めて意見を頂き話し合いサービス向上に活かしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村で開催する研修等に参加して、サービスの質の向上に努めている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今後は研修会等に積極的に出席していきたい。	○	今後は研修会等に積極的に参加し学ぶ機会を持つ様にしていきたい。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	相手の立場を尊重し、自分の身におきかえたらとスタッフ会議等で確認しあい目配り、気配りに注意をはらい防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	細かい事についても説明し、ご家族からも不安や、疑問点は話して頂き理解・納得して頂けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者が安心して生活できる場として、言いたい事、不満など管理者、職員、外来者に自由に言える雰囲気作りに努めている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>体調の変化等も含めて必要時には電話で報告、面会時にはその都度個々に金銭明細を見て頂き領収書を渡し印をする。職員の異動については報告もし、毎月の通信に載せ新しい人には写真をのせ一言書いてもらっている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族の来訪時、「何かこまった事、どんな事でも」と意見等を聞く場を設けたりこんなことはどうですかなど、気軽に話して頂き日々の運営に反映している。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の業務及びスタッフ会議等も含めて、個々に意見があるときは聞く機会を多く設け、意見を発してもらえることは様々な部分で反映できるのですぐ対応している。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状況の変化に合わせ勤務の調整を行なっている。夜間時にも状況によってはホームに出向いたりしなければならぬ場合もあるので、話し合いを密にしながら調整している。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動が少ないのでなじみの関係でケアをしている。さらに職員間の信頼関係を密にしてダメージを防ぐようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修も含めて、日々のケアをとおして介護技術の指導、職員のケア内容に目配りし気がついた時はその都度働きかけている。	○	重度のケースが何ケースかおり心身の機能が低下する事により、事故などのないように密に話し合いホーム内での学びをさらに高めていくよう進めている。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他グループと交換研修を行い受け入れたり、職員が他のグループホームに研修に行ったり、又介護学校の実習生、個人で訪問したい場合なども受け入れ交流の機会は多い。	○	「見学させて下さい」と認知症の事を学びたい、地域の方など、時にはレクリエーションの輪の中に入って共に、楽しんでいただく事もある。質問、聞きたい事などがある時は可能な限り対応している。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日々のコミュニケーション、個々の相談、定期的に仲間同志が皆で集まりリフレッシュを行うように働きかけている。(おいしい物を食べたり、飲み会・ボーリング等)	○	時々経費をカンパし楽しみの機会を多く持っていきながら職員同士のコミュニケーションを密にし、意欲を持って働いてほしい。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	日々の仕事への緊張感を軽減できる時間を大切にしながら、先輩も後輩も皆同じ屋根の下で和気あいあいに、常に向上心をもって働くように働きかけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	利用者の気持を受け止め、環境の変わった不安、知らない人との接触すべてにおいて安心してもらえるようによく聴き慎重に働きかけ、信頼していただくように努力している。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ホームを選択された家族の気持ちを十分受け止め、よく聴き、気がついた事を遠慮なく話して頂けるような雰囲気作り努力している。	○	様々な事情なども含めて、家族の気持を聴く機会を多くもち早く安心して頂けるよう配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が必要としている状況を見極め様々なサービスの相談に努めている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	今まで生活されていた状況等を詳細に聴きとり、安心した生活ができる様配慮工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	知恵・知識等も含め場面、場面で学びあい手助け、見守り感情を共感し支えあう関係が築けるように努めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者あつての家族、家族あつての利用者の関係を大切により深く理解し合える関係が築かれるよう支援している。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	利用者の日々の生活の状態等を面会時などに伝え、又家族の知り得た事なども提供して頂き良好な関係が築いていけるよう支援している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	住み慣れた環境(米町公園・春採・桜が岡方面)へドライブしたり、利用者が逢いたい人の名前を話してくれた時などは家族を通して、相手に働きかけるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個性を尊重しその人らしさを生かし、心身の状態なども考慮し楽しく過ごせるよう見守りに努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	特養に入居された利用者にも継続して面会など、看取りのケースの娘さんが雑布を届けて下さり昔の話をしたりして関係作りを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々により豊かな暮らしができるよう本人の希望や意向の把握に努め、当ホームで何年か生活された思いを尊重しながらその時々で検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	暮らしていた地域、場所、家などを把握し何ケースか住んでいた家に出向いたりしながらサービス利用に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々のケースの過ごし方、心身の状態、できる事できない事の把握をして情報の共有化につとめる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	心身の状態に合わせよりよい生活が出来るように、本人、家族重度のケースには医師、看護師などにも助言を聴き介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月～6ヶ月で計画を作成しスタッフ会議等で評価、打ち合わせ等を行い日々の生活の中で変化が生じた場合はその時々で話し合い新たな計画を作成している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の心身の状態、ケア内容などを細かく個々に記入し情報を共有し計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	その都度、その時々に応じて柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要性が生じた時は様々な関係機関等と協力しながら支援していく。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	個々の必要性に応じ他の施設や、当ホーム利用者の意向に合わせてケアマネジャー、事業者と話しあい支援に努めている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	その時々状況に応じて、ケアマネジャーにも相談したりして地域包括センターと協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>家族の同意のもとに協力医療機関と医療連携体制を結んでいるので、定期的に医師、看護師の往診があり適切な医療が受けられるように支援されている。</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医療機関に様々な事を相談したり、医師の助言を仰ぎ必要に応じて受診したり治療を受けられるように支援している。</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医療機関の医師が来ない週には看護師が来て健康管理、採血、採尿、バイタルチェック様々な相談等が支援されている。</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院中にも面会し、症状が緩和ホームでケアが可能になった時は医師の判断により、早期退院して住みなれた環境で安心した生活が出来るようにしている。</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>個々の状態により、早期に看取り介護について家族と相談話し合いを密にして、協力医療機関とも話し合い同意のもとに方針を共有している。</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>身体的・精神的苦痛、苦悩をできるだけ緩和し尊厳に十分配慮しながら、協力医療機関と24時間連絡体制をとりながらチームとしての支援に取り組んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>本人、家族ケアマネージャー等とも情報交換を密にしながらメリット・デメリットなども含めてダメージなどを防ぐように努めている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損なわないケアをし、個人情報についても慎重に受け止めミーティング、スタッフ会議等でも再確認しあっている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日々の気持を尊重し、本人が生きてきた人生の流れなども理解して思い思いを生かせるような働きかけをおこない暮らしていけるように支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>その日その人らしさ大切に、個々の介護の状態なども含めて不安のないように過ごしていただけるように支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>身だしなみを受け止め、本人の心身の状態も考えながら着やすく、動きやすいおしゃれができるように美容は本人の望む店にいける人、座位などが困難なケースには職員が対応している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理方法も個々に(刻み・あら刻み・骨をとったり)好みを生かしながら、食材を切ったり、洗ったり、後片付け等を利用者と一緒に行い食事を楽しむようにしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の身体状態に合わせて好みのものを、時々最高齢のケースがお餅を食べたいと危険がともなわないように提供したり、ビールなども何人かが行事などには支援している。	○	デパート・喫茶店等に外出される時は個々の目でメニューを選択されて楽しんで食べて来る、今後もそういう機会を多く支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の状態に合わせて排泄パターン等を記録し、昼はトイレ介助、夜は尿トリパットを使用しながら誘導して気持ちよい排泄ができるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の身体的状態を考慮しながら、2ケースは職員が2人で介助が必要なのでその時々で入浴を楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個々の心身の状態、状況に応じて昼寝をした、早く寝たり、遅く寝たり気持ちよく寝る事ができるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	できない事を見極め、役にたちたいという気持ちが個々にあるので「やりたいという気持ちを尊重し」できる事への楽しみ満足感なども含めて支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つ事への理解が困難となってきたので、外出時は個々に所持するよう対応しその時どきの状態に応じて支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	重度のケースも参加してテラスで全員で、焼肉会やピクニック風昼食会を行う機会をもうけたり、個々の希望に添って外出・ドライブ・買い物・家に行くなど行なっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	思いや意向を聞きながら、個々の心身の状態に応じて対応、昔暮らしていた家に行ってみたくてというケースが多く家族と相談しながら、何人かが集まって居てくれたり共に昼食をしてひと時を楽しまれている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠くにいる家族から電話がきたり、頼みたい事があるからと電話するなど手紙をかき家族に手渡したり、家族、孫などから手紙、はがきがくると枕の下に……そのような時の行為を大切にしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪して下さる時は時間帯を含めていつでも気軽にと、共にコーヒーを飲んだり、昼食時などは利用者から「食事を出してあげなさい」と、来訪者の方に利用者の気持ちを大切にお願いする事もありその時々に応じている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努める」と心して受け止め身体拘束はしていない。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夕方7時～翌朝6時までは鍵をかけているが、来訪者が来る時などは鍵をかけない又夜勤者以外の職員が居る時にはその時々に応じて対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は気配り、目配り、見守りを密に行い安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々の状態に応じて注意の必要な物品等は他の場所に保管しているが、必要に応じてその都度対応する。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	その場、その時に安全な体制ができるように、個々の状態の変化等を職員が再確認を行い防止に取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	応急手当・災害時のマニュアル綴りのファイルを作り職員が常に読み学び、スタッフ会議等で復習をしている。	○	事態に戸惑わないようにさらに、訓練を積み重ねていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の協力が困難な環境なので状況に応じて職員がホームにて待機をしていたり、緊急連絡網での対応をしている。	○	4月より町内会に入会したので会合等に参加し、協力が得られるように働きかけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時などに説明を行っているが、起こりえる状況になった場合は家族にその都度説明し抑圧感のない暮らしが出来るように家族と共に対処策を話しあっていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	朝、夕のバイタルチェック体調の変化や異変速やかに対応、記録伝達などにより情報を共有しその時々で判断して医師にも連絡する。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別に服薬を(朝・昼・夕)保管して内容も個別にファイルしている、家族にも聞かれたら見て頂くようにしながら職員は良く理解して症状の変化等の確認に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個別に排便の状態を記録し、便秘は気持の不安定にもなるので水分を多く食事にも工夫して身体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔内の洗浄が困難なケースが多く、義歯洗浄は職員が対応口腔内は個別に付き添って支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分量、摂食量、調理方法も含めて個別に対応している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	手洗い、うがい、便座の消毒の予防に努め、インフルエンザ予防接種を利用者、職員全員が実施し、玄関には手指消毒用アルコールをおき面会時等協力をお願いしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品の賞味期限、在庫のチェック調理用具等は毎日消毒をしている、布巾などは、朝・昼・夕同じものを使わないようにし衛生管理には注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	いつでも気軽に出入りして頂けるように、外周りを綺麗に花畑や野菜畑テラスには椅子をおいたり工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	花や鉢植えなどを置き季節にあった飾りつけをおこない、壁には春・夏・秋・冬にあった飾りつけをしたりフロアーには鑑賞用の熱帯魚の水槽をおいてある。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その日、その時の状況に応じた配慮をおこない、廊下の一部に植え込みの椅子があり気のあった同士でひと時が過ごせる工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居されるとき個々の状態、その人が好まれ物や使いなれた物により気持も安らぐので持ってきて頂くように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	除菌イオン空気清浄器、温度計・湿度計などを設置し、トイレ、各居室、フロアーには墨の消臭液を個々においたり状況に応じて環境作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>それぞれの身体機能を活かして安全に生活できるように工夫している、居室、トイレの入口などは本人が自分で出入りできるように夜はストッパーでとめて安全に配慮している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりのできる度合いに合わせて、食材を切ったり、後片付け、洗い物、食器拭き、布団カバーたたみなど混乱する事のないように配慮している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>テラスに季節に合わせた花を家族が届けてくださったり、テラスでボール投げ、体操、アイスを食べたりその時々で楽しめるようにしている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>○①ほぼ毎日のように ○②数日に1回程度 ○③たまに ○④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている ○②少しずつ増えている ○③あまり増えていない ○④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ○③職員の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ○③利用者の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ○③家族等の1/3くらいが ○④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)